

# DL9700 / DL9500 / DL9000 Series (/F5, /F7, /F8 Option)

## ■主な仕様

CANバス信号解析機能	
CANバス ビットレート	CAN Version 2.0B 1M, 500k, 250k, 125k, 83.3k, 33.3k[bps], または10k~1M[bps]の任意のビットレートを設定可能(設定分解能は0.1kbps)。 High speed CAN(ISO11898), Low speed CAN(ISO11519-2)に対応
●トリガ機能(標準装備) トリガソース トリガタイプ	CH1~CH4 SOF :SOF(Start of Frame)でトリガ。 Error Frame :エラーフレームでトリガ。 ID Std/Data :データフレーム/リモートフレーム(ID: 標準フォーマット)でトリガ。 ID Ext/Data :データフレーム/リモートフレーム(ID: 拡張フォーマット)でトリガ。 ID/Data OR :4種類のデータフレーム/リモートフレームのOR条件でトリガ。 IDごとに標準フォーマット/拡張フォーマットを選択可能。 Msg/Signal :CAN Message(ID)とSignal(ID/Data)でトリガ。
●解析機能 信号入力 解析可能フレーム数 解析対象フレーム 解析結果表示 解析結果リストのデータ保存 解析補助機能	CH1~CH4, M1~M4から選択 最大3000フレーム(トリガ点前後1500フレーム) データフレーム、リモートフレーム、エラーフレーム、オーバーロードフレーム デコード&リスト表示 解析結果リストの簡易表示および詳細表示のデータをCSV形式で保存可能 データサーチ機能、フィールドジャンプ機能、スタッフビット演算機能、デコード表示
LINバス信号解析機能	
LINバス ビットレート	LIN1.3またはLIN2.0 1200bps, 2400bps, 4800bps, 9600bps, 19200bps, User, または1k~20k[bps]の任意のビットレートを設定可能(設定分解能は10bps)。
●トリガ機能(標準装備) トリガソース トリガタイプ	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1から選択(モデルにより異なる) Break+Synch : Breakに続きSynchバイトを検出した場合トリガ。
●解析機能 信号入力 解析可能フレーム数 解析対象フィールド 解析結果表示 解析結果リストのデータ保存 解析補助機能	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1, M1~M4から選択(モデルにより異なる) 最大3000フレーム(トリガ点前後1500フレーム) Break, Synch, ID, Data, Checksum, 付加情報(ID/パリティエラー、Checksumエラー、Wakeup信号) デコード&リスト表示 解析結果リストの簡易表示および詳細表示のデータをCSV形式で保存可能 データサーチ機能、フィールドジャンプ機能、両Rev同時解析機能
UART信号解析機能	
ビットレート	1200bps, 2400bps, 4800bps, 9600bps, 19200bps, 38400bps, 57600bps, 115200bps, User, または1k~200k[bps]の任意のビットレートを設定可能(設定分解能は0.1kbps)。
●トリガ機能(標準装備) トリガソース データ形式 トリガタイプ	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1から選択(モデルにより異なる) データ形式は以下から選択 ・8bit Data (Parity bit無し) ・7bit Data + Parity bit(エラートリガ時のみ選択可) ・8bit Data + Parity bit(エラートリガ時のみ選択可) Every Data : すべてのデータのStop Bitの位置でトリガ
●解析機能 信号入力 解析可能フレーム数 解析対象フィールド 解析結果表示 解析結果リストのデータ保存 解析補助機能	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1, M1~M4から選択(モデルにより異なる) 最大3000バイト(トリガ点前後1500バイト) Data, 付加情報(Parityエラー, Framingエラー) デコード&リスト表示 解析結果リストの簡易表示および詳細表示のデータをCSV形式で保存可能 データサーチ機能、フィールドジャンプ機能、ASCII表示、グルーピング表示
I <sup>2</sup> Cバス信号解析機能	
I <sup>2</sup> Cバス	バス転送レート: 最大3.4Mbit/s アドレスモード: 7bits/10bits
●トリガ機能(標準装備) トリガソース トリガタイプ	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1から選択(モデルにより異なる) 下記から5つのトリガモードを選択可能。 Every Start : スタートコンディションを検出したときにトリガ ADR&DATA : 設定されたアドレスおよびデータとの比較でトリガ NON ACK : Nackを検出したときにトリガ General Call : ジェネラルコールアドレスのセカンドバイトパターンとの比較でトリガ Start Byte/HS Mode : スタートバイトまたはHSモードのマスターアドレスでトリガ ADR&DATAトリガのアドレスタイプは、下記の3つから選択可能。 7bit address, 7bit + Sub Adr, 10bit Address
●解析機能 信号入力 解析可能データ数 解析対象アイテム 解析結果表示 解析結果リストのデータ保存 解析補助機能	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1, M1~M4から選択(モデルにより異なる) 最大40000バイト分 Adr, Data, R/W, Ack, General Call, StartByte, HS Mode デコード&リスト表示 解析結果リストの簡易表示および詳細表示のデータをCSV形式で保存可能 データサーチ機能、フィールドジャンプ機能
SPIバス信号解析機能	
●トリガ機能(標準装備) トリガソース トリガタイプ	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1から選択 CSがアサートされてから任意のバイトカウントからのデータを比較してトリガ。 比較するデータ長は1~4バイトから選択可能。
●解析機能 信号入力 解析可能データ数 解析対象アイテム 解析結果表示 解析結果リストのデータ保存 解析補助機能	CH1~CH4, Logic PodA~PodD*1, M1~M4から選択(モデルにより異なる) 最大40000バイト分 Data デコード&リスト表示 解析結果リストの簡易表示および詳細表示のデータをCSV形式で保存可能 データサーチ機能、フィールドジャンプ機能

\*1: DL9700はPodA~PodD(CANバス信号除く)、DL9500はPodA, PodC(CANバス信号除く)、DL9000は無し